

NEWS RELEASE

2026年6月4日

報道関係各位

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
Vポイントマーケティング株式会社

**CCC、Vポイントマーケティング、松尾研究所の共同研究論文が
「2026年度 人工知能学会全国大会」に採択**

—複数業態の行動データを統合し、高精度な「人間中心のAIペルソナ」構築の有効性を証明—

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長兼 CEO：高橋 誉則、以下「CCC」）、Vポイントマーケティング株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長執行役員：廣田 精吾、以下「Vポイントマーケティング」）は、株式会社松尾研究所（本社：東京都文京区、代表取締役：川上 登福、以下「松尾研究所」）と共に実施している共同研究成果をまとめた論文『大規模言語モデルを用いたマルチドメイン行動ログの統合と行動予測』が、「2026年度 人工知能学会全国大会（第40回）」に採択されましたことをお知らせいたします。なお本研究成果については、2026年6月8日（月）に同大会にて発表を行う予定です。

CCC **Vポイントマーケティング**

CCC、Vポイントマーケティング、松尾研究所の共同研究論文が
「2026年度 人工知能学会全国大会」に採択



近年、生活者の価値観や行動は急速に多様化しており、従来の考え方だけでは刻一刻と変化するニーズを捉えることが困難になっています。こうした課題を解決するため、CCC、Vポイントマーケティングは松尾研究所とともに、アンケート等の「言語データ」や購買行動などの「実行動データ」を組み合わせ、生活者一人ひとりをより立体的・多面的に理解することを目指し、2025年9月より共同研究に取り組んでまいりました。今回の共同研究論文は、その深い理解に基づいた「人間中心のAIペルソナエージェント」の社会実装に向けた第一歩となる理論的成果です。

マルチドメインデータの生活者理解（ユーザーモデリング）への有効性を証明

本研究は、生活者一人ひとりの行動や価値観を構造的に捉える「ユーザーモデリング」の高度化を目的としています。これまで、大規模言語モデル（LLM）を用いた行動分析は、主に単一ドメイン（特定の業態やサービス）内での履歴活用を前提としてきました。しかし、多くの生活者は複数の業態やサービスを横断しており、断片的なデータだけではその全体像を捉えきれないという課題がありました。本研究では、LLMを活用してマルチドメイン（複数業態）の行動履歴から、一貫性のある文章化されたペルソナ情報を抽出・統合する手法を研究し、その有効性を実証しました。AI技術の活用においては、学習・分析の対象となるデータの多様性と量が、そのアウトプットの解像度を左右します。AI技術を介することで、より高精度なユーザーモデリングが可能であることが学術的に裏付けられました。これにより、将来的には個々にパーソナライズされた顧客体験への変換が期待されます。具体的には、購買履歴といった「実行データ」だけでは把握しきれない生活者の価値観や意思決定の背景をペルソナ文章として言語化し、アンケートなどの「言語データ」と組み合わせて分析することで、これまで以上に実態に即した深い顧客像の設計が可能になります。これにより、生活者一人ひとりの文脈に寄り添ったコミュニケーションやサービス設計につなげることが期待されます。

今後は、生活者の潜在的なニーズをより高い解像度で捉えたサービスやプロダクトへの実装を検討してまいります。CCCおよびVポイントマーケティングは、松尾研究所と引き続き「人を起点に考えるAI」を実装し、これからの暮らしや社会に役立つ新たな価値の創出に取り組んでいきます。

報道関係者からのお問い合わせ：

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
広報部 TEL：045-522-8154／MAIL：inquiry@ccc.co.jp
問い合わせフォーム：<https://www.ccc.co.jp/info/press/>

Vポイントマーケティング株式会社
経営企画・広報グループ TEL：045-522-8174／MAIL：cccmkpr@ccc.co.jp
問い合わせフォーム：<https://vpoint.co.jp/contact/press/>